

敬老バス在り方検討にかかる市民懇談会資料

○懇談会趣旨

佐世保市が実施する「佐世保市敬老特別乗車証（通称：敬老パス）」事業について現行制度の課題・問題点を整理し、今後の在り方について施策を検討するため、市民の方々の意見を伺い参考とするもの。



敬老パスとは？

高齢者が心身の健康を保ち社会活動に積極的に参加することができるよう、敬老特別乗車証を交付し、老人福祉の向上を図ることを目的とする。

高齢者の **健康増進** を目的として開始された事業です。

本事業は **交通費の支援事業** ではありません！

敬老パスの歴史

- **昭和50年8月開始** … 市営バスの無料乗車証として **75歳以上**の市民を対象
- 市町合併後（平成20年）には西肥バスも対象 … 現在は、**西肥バス・させぼバス**が対象
- 当初の紙乗車証から、令和2年より **ICカード形式**へ（ナガサキニモカカード）

高齢者の増加による事業費増加への懸念（事業者負担を減らす）

○交付者および事業費の推移

75歳以上
43,200人中…

交付者推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
交付者数	22,378人	22,559人	22,573人	20,402人	22,179人	22,581人	23,457人
交付率	56.7%	56.6%	56.7%	51.5%	54.6%	54.0%	54.3%
乗車回数	369万回	362万回	280万回	276万回	277万回	276万回	270万回
乗車運賃	9.1億円	8.9億円	6.7億円	6.6億円	6.6億円	6.8億円	8.0億円
うち市負担①	4.7億円	4.7億円	4.7億円	4.7億円	4.7億円	4.7億円	4.8億円
うち事業者②	4.4億円	4.2億円	2.0億円	1.9億円	1.9億円	2.1億円	3.2億円

○事業費負担の考え方

現行（8.0億円）

そのためには、
財源を増やすか
支出を減らす必要がある



乗車運賃



事業者負担を減らす

事業費縮減？

利用者負担
+
事業者負担
+
市負担

ポイント

- ◎利用者・事業者・市の3者がどのように負担していくか
- ◎負担増としない、または少なくするため、事業縮減を図るべきか

交付率は54.3% (令和6年度)



市街地と周辺地域で**交付率の差** (基幹路線は交付率が高い)

佐世保市地域公共交通計画の分類

- 都市核
- 地域核
- 生活核

	区分	75歳以上人口	交付者数	交付率
※	本庁	15,312人	8,869人	57.9%
	宮	672人	274人	40.8%
	三川内	844人	394人	46.7%
	針尾	507人	206人	40.6%
	江上	1,074人	511人	47.6%
※	早岐	4,693人	2,538人	54.1%
※	日宇	4,703人	2,728人	58.0%
※	大野	3,305人	1,962人	59.4%
	中里皆瀬	1,962人	1,084人	55.2%
	柚木	814人	432人	53.1%
※	相浦	3,733人	2,055人	55.0%
	黒島	134人	80人	59.7%
	吉井	886人	410人	46.3%
	世知原	828人	401人	48.4%
	宇久	564人	136人	24.1%
	小佐々	1,063人	436人	41.0%
	江迎	1,092人	502人	46.0%
	鹿町	1,014人	439人	43.3%
	計	43,200人	23,457人	54.3%

※ 75歳以上人口は、12か月の平均値

※ 交付者数は、引換券交付構成率による按分

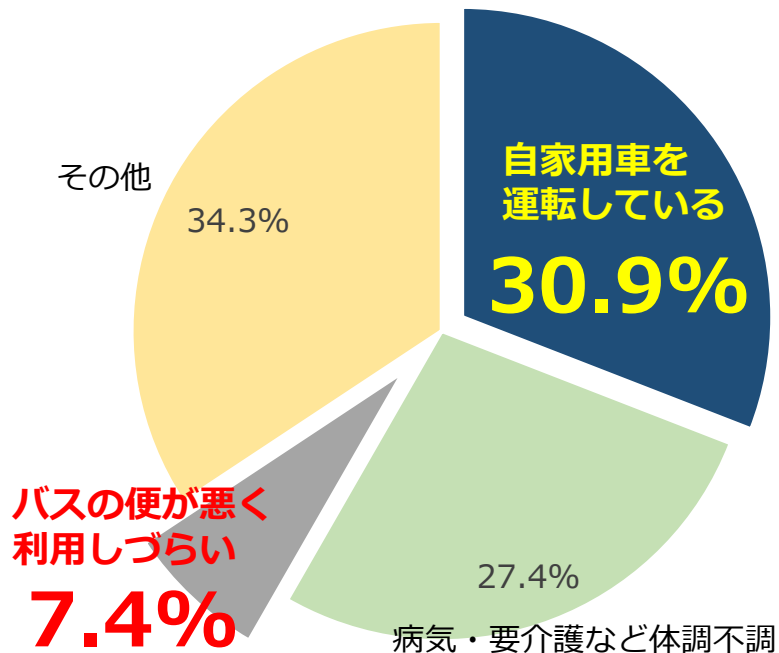
市街地と周辺地域の未取得理由

令和5年度実施 市民アンケート結果から

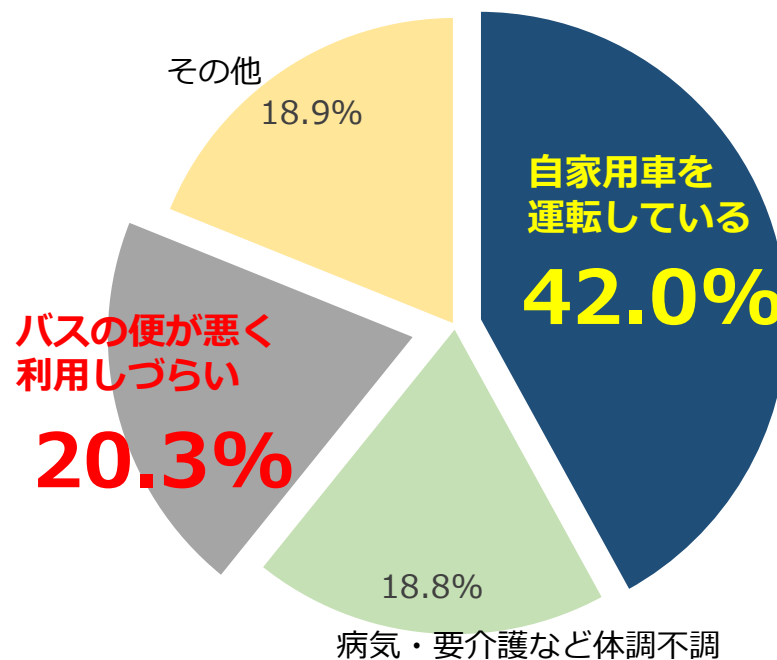
対象	: 3,000人	(50歳から89歳までの市民を無作為抽出)
回答者数	: 1,750人	(回答率 58.3%)
うち75歳以上	: 931人	(回答者のうち、53.3%)

○敬老パスを持っていない理由は？

市街地



周辺地域



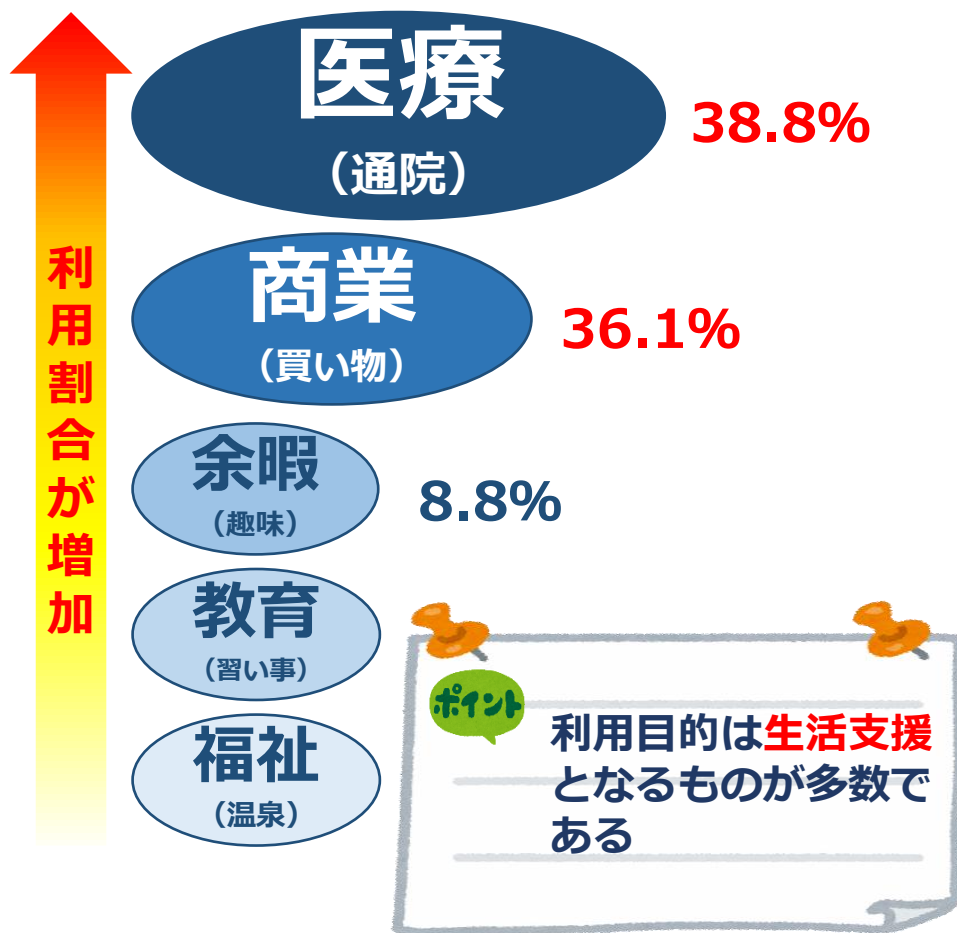
ポイント

周辺地域では「運転している」に次いで「バスの便が悪く利用しづらい」が多い

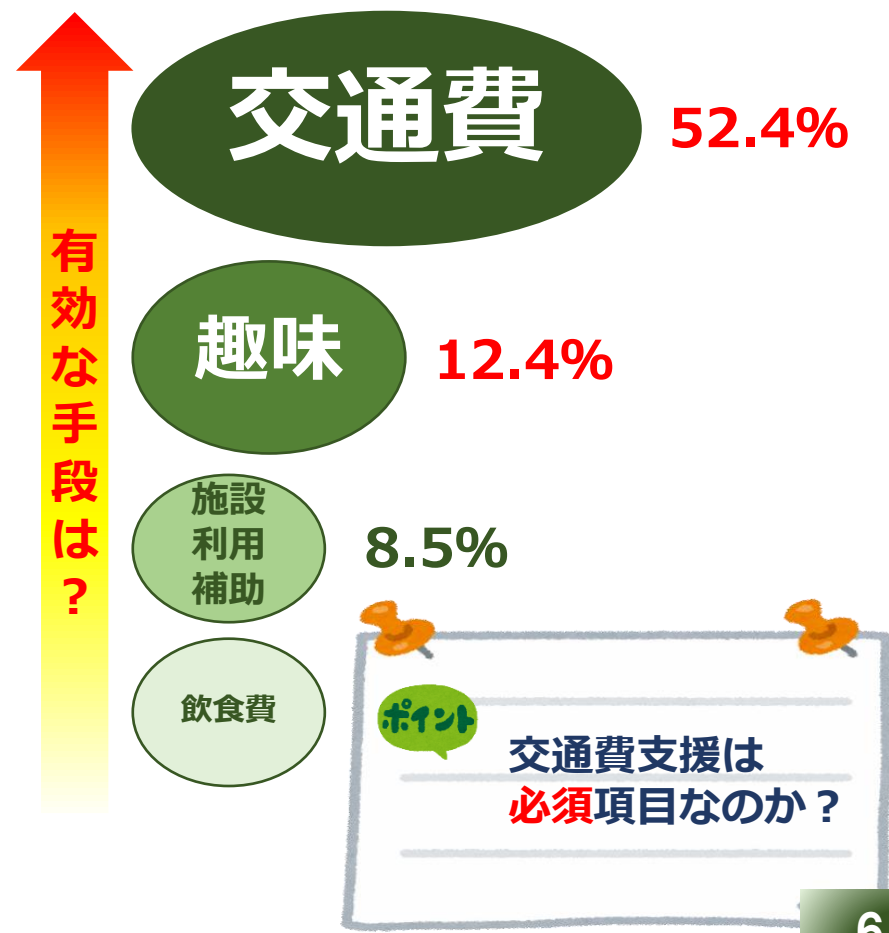
パスを利用した外出目的・有効な手段は？

令和5年度実施 市民アンケート結果から

○敬老パスを使って外出する目的は？



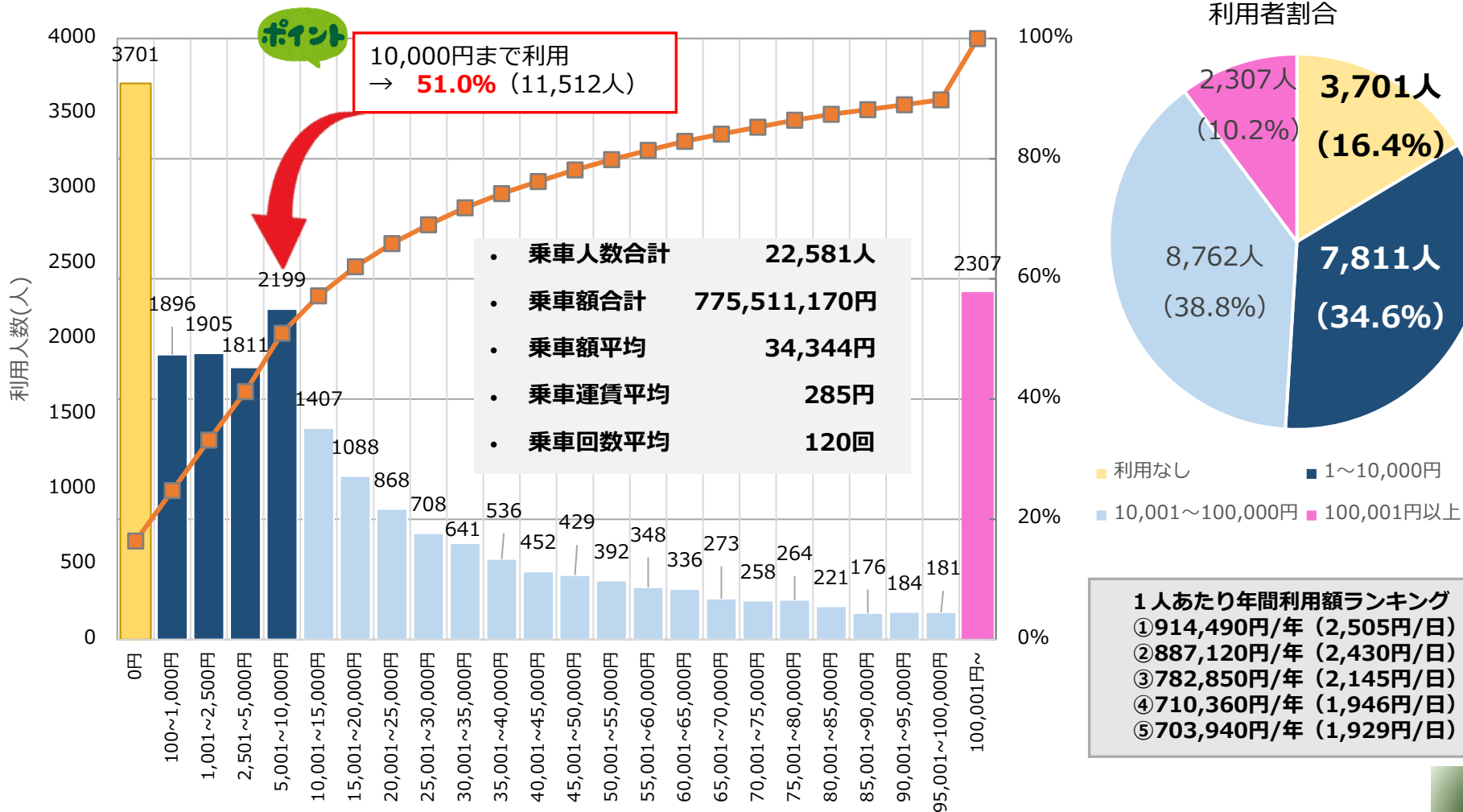
○健康増進のために有効と考える支援は？



利用者の約半数は年間利用額 1 万円まで

敬老パス利用状況（令和6年度） 年間**利用額**の人数（利用者数 22,581人）

※ 使用データは2024.2~2025.1までの1年間



年間利用額には大きな差

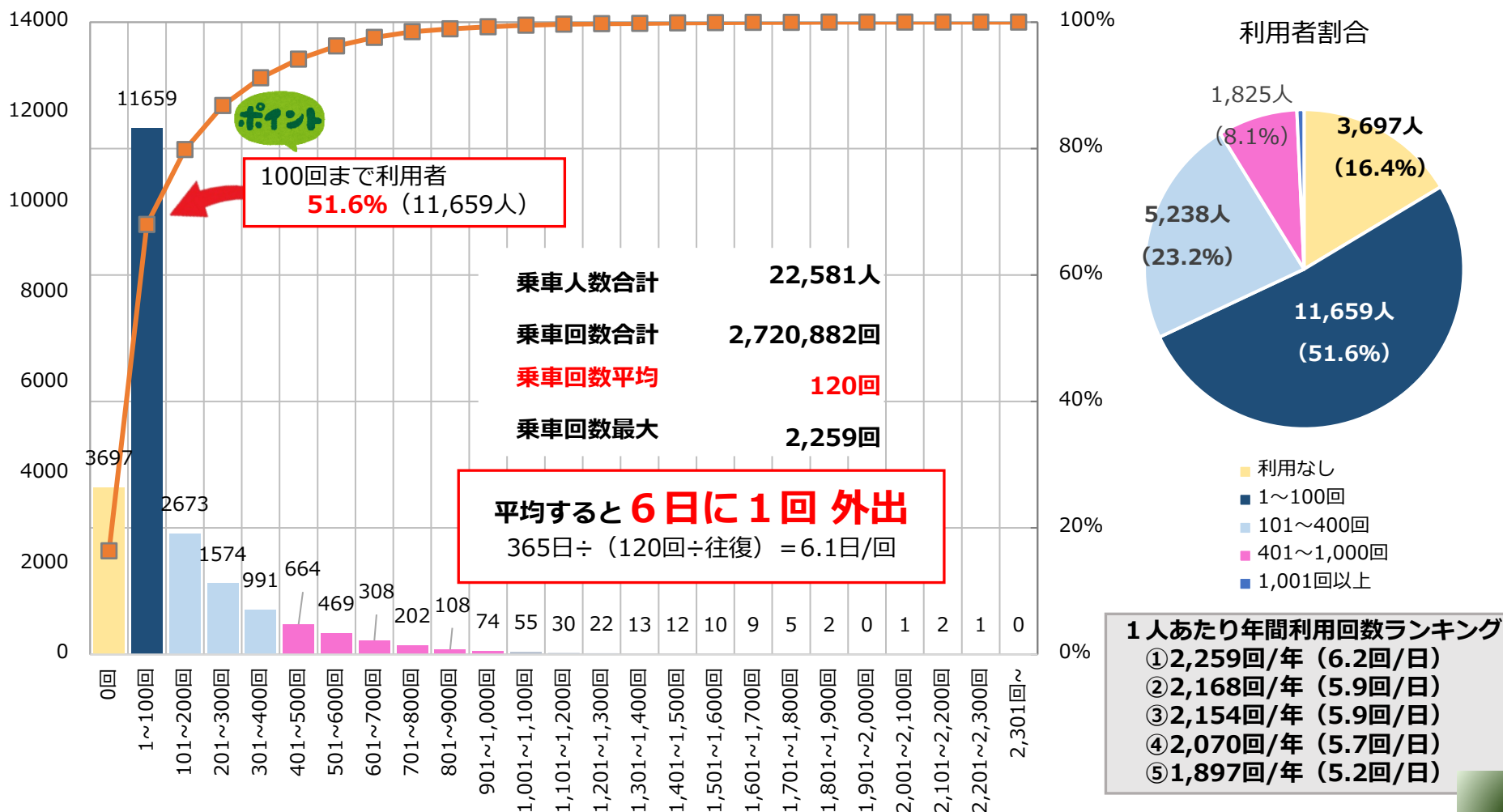
敬老パス利用状況（令和6年度） 年間**利用額**の人数割合（利用者数 22,581人、乗車額合計 775,511,170円）



年間利用回数は約半数が100回まで

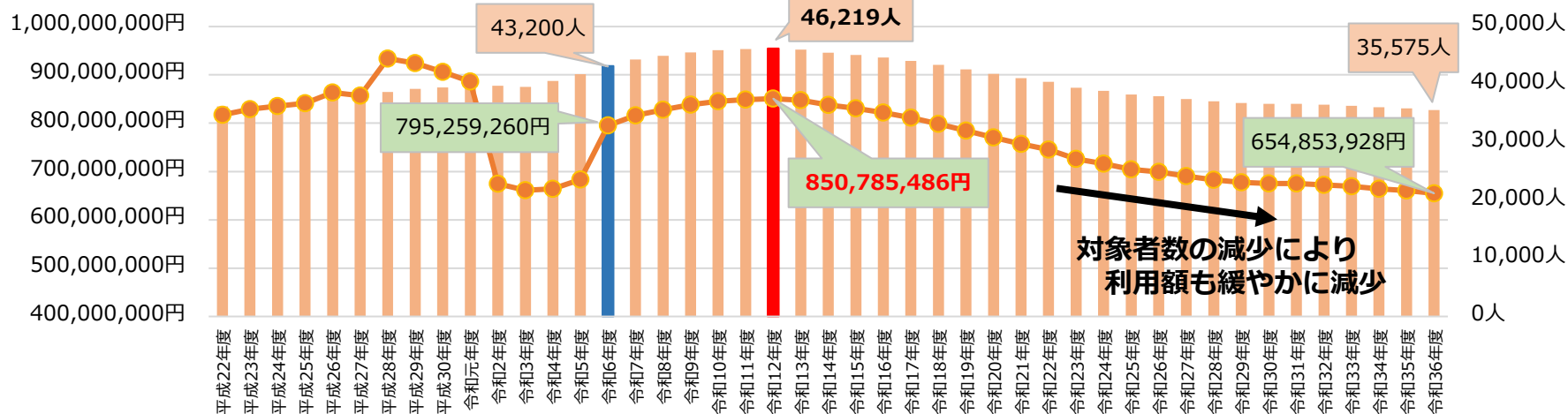
敬老パス利用状況（令和6年度） 年間利用回数^{回数}の人数（利用者数 22,581人）

※ 使用データは2024.2～2025.1までの1年間

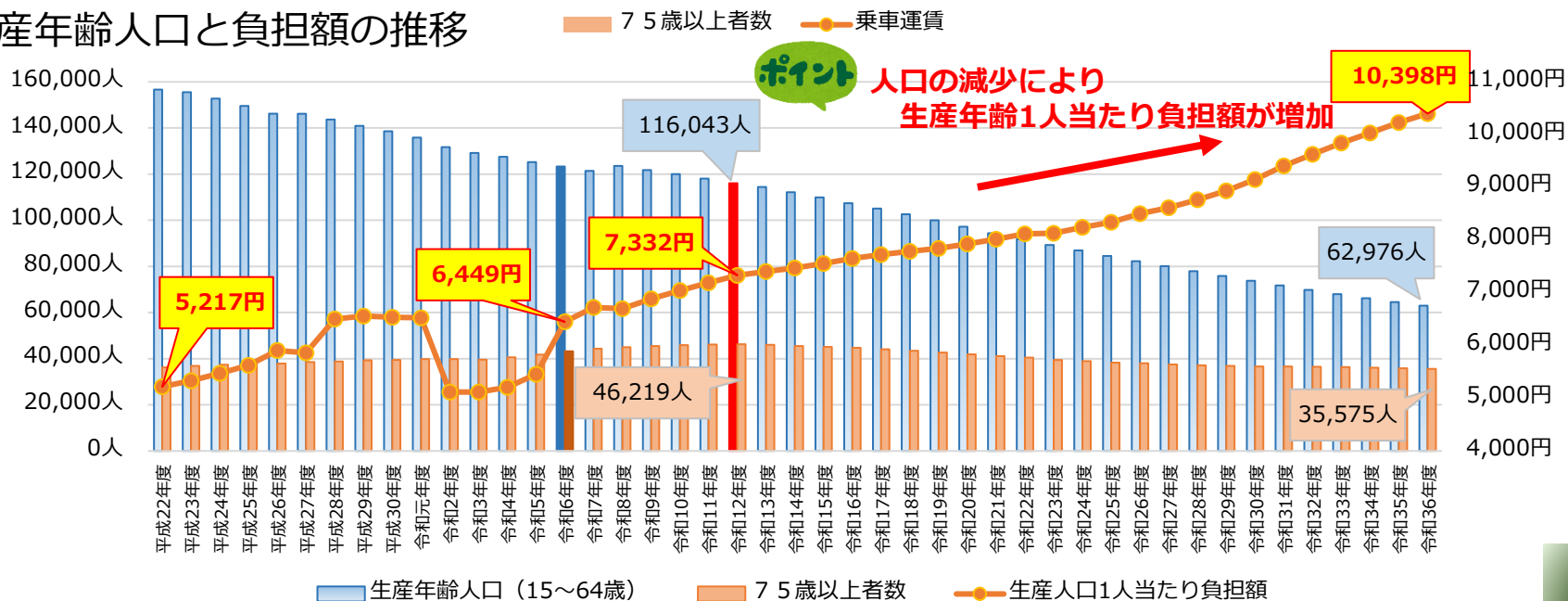


人口減少が進むと (将来のために今からやるべきことは・・・)

○後期高齢者人口と事業費の推移



○生産年齢人口と負担額の推移



取り巻く環境の変化等による現状のまとめ

敬老パス以外

大幅な人口減少

運転手不足によるバス減便

商店などの
経済への影響

敬老パス

大きな
財政負担

事業者
への負担

未利用者が
約半数

居住地による
不公平感

利用目的
の相違

利用額に
大きな差

参 考

他都市の状況

予算確保等の理由により廃止を決定
(長崎市)

全国の自治体
(中核市) の中で
無料で乗車
できるのは
佐世保市のみ

これまで議会や市民の方々から様々なご意見等を頂いている。

これまでの議会や市民の方々からのご意見等 まとめ

①事業の効果・公平性において十分でない

交付率の低さ

②居住地により、平等な制度となっていない

地域間の利用機会の不均衡

③投じている費用に対し結果が伴っていない

財政負担の見直し

④市民の意識は健康維持を目的とする事業と相違があるのでは？

制度の目的と現状の整合性

⑤松浦鉄道などでも利用可能としてほしい

様々な公共交通機関で利用可能に

⑥制度維持のため、利用者負担を徴収してもよいのではないか？

利用者負担金の徴収

持続可能な事業への在り方検討

目的や手段の見直しなど



佐世保市保健福祉審議会（高齢者福祉専門分科会）の審議内容

○これまでの議会や市民の方々からのご指摘・ご意見を受け、広く意見を聴取するため
 「佐世保市保健福祉審議会（高齢者福祉専門分科会）」へ**諮問**

第1回 令和7年5月23日

高齢者の健康増進にかかる施策の方向性を検討するため
 「敬老特別乗車証交付事業」の今後の在り方について諮問

☞佐世保市が考える健康増進

- ①家に引き籠ることなく、積極的に外出する
- ②生きがいを持ち、日々充実した日々を過ごす
- ③適度な運動を日々実践し、健康を維持する

第2回 令和7年7月28日

「高齢者の健康増進」という目的のため、どのような手段がよいかを議論

- | | | |
|------------|---|------------------------------|
| A：外出支援 | … | 現行のような交通費助成 |
| B：生きがいづくり | … | 趣味講座等への参加費助成等 |
| C：運動支援 | … | 歩くことでのポイント付与など |
| D：既存事業との統合 | … | いきいきサロンや老人クラブ
助成など既存事業の拡充 |

結論：方向性としては「A案・外出支援」とする

第3回 令和7年8月28日

外出支援としてどのような支援の形がよいか、財政縮減効果も併せ議論

- 案1：現行制度を元に、1乗車当たり100円負担
- 案2：現行制度を元に、更新時に10,000円負担
- 案3：現行制度の利用上限を年20,000円とし、その他でも乗車可能な共通券 年5,000円との選択制
- 案4：年5,000円の共通券を交付
- 案5：年10,000円の共通券を交付
- 案6：乗車金額に応じポイント還元（年5,000円上限）

**結論：公平性が図られる観点から、案4、案5の共通券方式とする
 金額については8,000円とする**

第4回 令和7年11月6日

第3回結論「**年額8,000円の共通券**」にて答申する旨、決定

要望事項として、縮減財源による公共交通対策や健康増進事業の検討、今後の状況変化に応じた検証を行うことを追記

佐世保市保健福祉審議会（高齢者福祉専門分科会）の答申内容

○計4回の審議を経て、令和7年12月12日に答申

令和5年度に実施された市民アンケートの結果から、健康増進の手段としては交通費助成制度が一番求められていることから、**施策の方向性は交通費助成による「外出支援事業」が最も優先度として高い。**

については、現行事業のような**事業者負担を伴う制度を見直し**、将来にわたって持続可能な事業となるよう事業費の縮減という観点からも検討し、現利用者・未利用者・佐世保市のすべてが「三方よし」となるような制度への見直しを求める。

あわせて公平性の観点から、**すべての対象者が利用できる**ような制度とし、限られた財源であることから、適正な利用ができるよう周知・広報を図っていくこと。

- 事業費** 1人当たり **年額8千円**
- 交通手段** **様々（バス、鉄道、タクシー等）な公共交通機関で利用できる**制度とする
- 利用形態** **ICカード等、デジタル機器の活用**を基本とする

【要望事項】

1. 現行事業は買い物や通院時の利用等、**生活支援的な要素も多分に含まれている**こと、また、**交通不便地区に対する移動手段確保といった公共交通対策**についても必要であることから、縮減できた財源を活用した対策を実施するなど、市の政策として関係部局が横断的に協議を進めていくこと。
1. 「外出支援事業」のみではなく、ウォーキング活動等に対しポイントを付与するなど、**健康増進を目的とした事業についても複合的に検討**すること。
1. 本答申は、現在の状況にて提案するものであり、今後、社会状況の変化に応じ検証を行っていくこと。

年額8,000円の時に恩恵を受けるのは…

- ・ 現在年間8,000円以上使用している方は、サービス低下となる見直し
⇒ 全体の28.3%

ポイント

- ・ その他の方には、他の交通手段にも使えるよう拡充されると恩恵がある
⇒ 全体の71.7%

乗るバスがない…

タクシー
じゃないと…

👉 うち、現行制度では全く恩恵を受けていない方…全体の54.8%

令和6年度乗降実績等による分析

75歳以上全体：41,788人

敬老バス 交付者 22,581人 54.0%			敬老バス 未取得 19,207人 46.0%	
年使用：8,000円以上 11,826人 28.3%	年使用：8,000円未満 7,054人 16.9%	年使用：ゼロ 3,701人 8.8%	要介護2以上 6,406人 15.3%	

新制度によりサービス低下となる方 (28.3%)

新制度により恩恵を受ける方 (71.7%)

事業目的の検討 敬老パスの方向性は？

現状

ポイント 事業目的等を見直す

①事業目的

健康増進

・交通支援 ・高齢者支援 ・生活支援 など

②必須条件

 本人が
 窓口で申請

検討

 ・対象者全員に送付 ・代理申請OK など
 ・対象年齢の引き上げ

③パス利用

バスを利用

・バス以外の利用（協議が必要） など

④利用現状

 通院や買い物の
 利用が多い

事業目的に沿った利用

課題

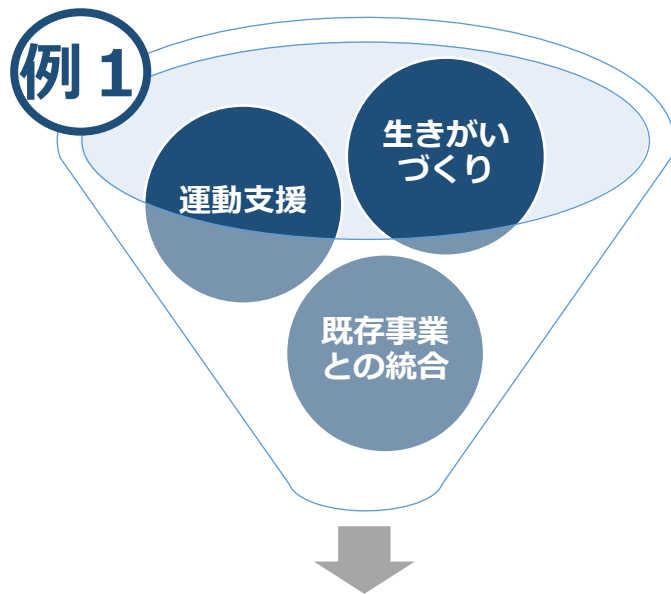
 ・目的と異なる利用状況
 ・窓口に来られる人だけ

 現行事業の課題解決
 （市民のニーズに合った事業）

見直しの例示

佐世保市保健福祉審議会の答申も参考にした課題解決

健康増進事業を目的に



敬老パスを廃止し
新たな事業へ

長崎県健康アプリ



ポイント付与

佐世保市地域通貨



など

外出支援（交通費助成）を基本に

- 例2 1乗車あたり
●●円を徴収 ▶ ・100円? ・200円?
・半額負担?
- 例3 毎年更新時に
●●円を徴収 ▶ ・1万円? ・2万円?
- 例4 利用上限
を設ける ▶ ✕ ICカードでは不可能
- 例5 乗車金額に応じ
ポイント還元 ▶ 制度がわかりにくい
- 例6 年間●●円の
定額を交付 ▶ 審議会の答申案
 目的外利用の防止策
が必要

利用者・事業者・市の負担バランスが重要

市民のニーズに対応できる見直しとは

○自治協議会の皆様からのご意見をお聞かせください。

- ・ 各地域における敬老パスの**利用状況**
- ・ 敬老パスに対する**課題・問題**
- ・ 現制度における**地域間の不公平感**をどう思いますか？
- ・ 今後**どのような制度**が望ましいと思いますか？

本日の説明動画の確認や、令和8年度の取組は、市ホームページに掲載しています



ホーム>健康・医療・福祉>健康>敬老パス
(敬老特別乗車証)>敬老パスの在り方検討
に向けた取組(令和8年度)

<https://www.city.sasebo.lg.jp/hokenhukusi/kenkou/keiroupasuarikatakentou.html>

